**第３回日置市****部活動在り方検討委員会　会議録**

○日　時：令和５年６月２日（金）　午後３時00分～午後４時30分

○場　所：日置市中央公民館　大会議室

○出席者：奥教育長

委　員：田中委員長・元山副委員長・柚木委員・下笠委員

小林委員・竹内委員・諸正委員・東委員・船倉委員

野間委員・寺園委員・鵜木委員

事務局：久木崎(事務局長兼教育総務課長）・松岡(社会教育課長)

秋丸(スポーツ振興係長)・中鉢（学校教育課長）

　　　　児玉(参事兼指導主事)

学校長：岡田校長（東市来中）・川端校長（伊集院北中）

１　開会

２　教育長挨拶

**３　議事**

1. **これまでの振り返り**

**上記項目について，別紙資料に基づき事務局より説明**

委員長：　ただ今、振り返りについて説明がありましたが、これにつきまして何かご質問がございますか。

　　　　　　（特になし）

　　　　　　　よろしいでしょうか。

　　　　　　　　それでは続きまして、(２)アンケート結果について説明をお願いします。

1. **アンケート結果、日置市部活動の現状及び部活動地域移行に向けた課題点について**

**上記項目について，別紙資料に基づき事務局より説明**

　　　委員長：　アンケート結果、日置市部活動の現状及び部活動地域移行に向けた課題点について説明がありました。

ご質問・ご意見、またご感想やこのアンケート結果を見て感じたことなどございましたら、どうぞお出しください。

教育長：　前回、このアンケートを是非やりたいという話をさせていただいたのは、全体的な流れとして、今、地域移行となっておりますが、実際学校の先生方はどう思っているのか、とても興味がありました。世の中はそう言っているけれども、学校は実際そう思っていないのではないか、というのが少しありました。実際そういうご意見もありました。

それから子ども達が、学校の今の部活動の現状をどう思っているのかにもとても関心があり、やはり部活動は学校でやった方がいいと思っているのではないか、というのがありました。

それで今回アンケートを取らせていただいておりますが、色々な意見が聞けてよかった、というのが今の私の感想です。思いもしなかったような意見も出てきたなとも思っています。

すみません、これは繋ぎでした。どうぞご意見を出してください。

委員長：　今教育長からいただきましたが、このような感想でいいかと思います。このアンケートを受けて、率直なところがありましたらお願いします。

　　Ａ委員：　このアンケート結果を見て、現場の状況が非常によく分かりました。生の声が聞けたと思っている中で、「対象：中学校長」の「部活動地域移行は必要だと思いますか？」という質問があります。「どちらともいえない」２人、「現状のままで支障はない」２人、とありますが、この学校は大きい学校なのか、小さい学校なのかを知りたいと思いました。

　Ａ中校長：　Ａ中ですが、「現状のままでよい」ではなく、「平日を含めて」か「休日のみ」のどちらかにしました。300人規模の学校です。

　Ｂ中校長：　Ｂ中です。はっきり覚えていませんが、「どちらともいえない」か「完全移行」かだったと思います。

　Ｃ中校長：　Ｃ中です。支障があるかないかと言えば、「支障はない」と答えております。ただ子ども達がやりたい種目があるかと言えば、それはないですが、今の部活動の中で支障というものはないので、「支障はない」に私はしました。

　　Ａ委員：　分かりました。

委員長：　ありがとうございました。他にございますか。

　　Ｂ委員：　「対象：中学校教職員」の「地域指導者を依頼するにあたり課題になること」で、「平日に指導可能な人材の確保」が75.6％です。本当に平日に地域で指導をしてくださる方がいらっしゃるんでしょうか。仕事をしない定年で辞めた爺ちゃんか、非番の消防署の人とか、そういう人達がいればいいですが、いなければ難しいような気がします。

また、平日に中学校の先生が部活を学校教育の一環として月曜日から金曜日まで指導していて、土日に外部の方にお願いするに当たっては、作戦面などが噛み合わないのではないかという気がします。その辺はどうでしょうか。

委員長：　はい。率直な質問をいただきましたが、特に部活動に関わってらっしゃる方からご意見がございますか。

Ｃ委員：　関連して、私も伺っておきたいと思っていたんですが、私達教職員にとってはこういう移行というのは、現実を分かっていただいてありがたいという思いもあります。

ただ本当に地域移行になった場合、指導してくださる方々も私達と同じように平日にお仕事を持ってらっしゃる方々が多くて、土日に家庭を犠牲にしてまで指導に入っていただけるのだろうかとすごく思いました。

実際に外部指導に来ていただいている部活がいくつかありますが、ボランティアで来ていただいていて、全然報酬はないのが現実です。大会に行っていただいてもせいぜい保護者からお弁当が出るのかなくらいの感じかと思っています。その引率の負担などはどうなのかなと、このアンケート結果を見ながら思いました。

手伝いをしていただけるのはありがたいですが、教職員のアンケートにもありましたように、野球部の顧問の先生だったと思いますが、大会の時の作戦面といったところはやはり疑問が残るし、自分が平日見てきたのであれば、やりたいと思う顧問の先生がいても当然かと思うところです。

　　委員長：　はい。他に関連してございますか。

　　Ｄ委員：　質問が１つあります。

これまでも出たと思いますが、今、中学校の部活の休養日を増やすとか減らすとかありますが、基本どんな状況なのか。

それから１つ感想です。このアンケートの取りまとめが大変だったと思いますが、ご意見の中に先生方から「働き方改革で多忙化と言われる中で、部活動だけがやり玉に上がっている」というご意見がございました。なんかそうだなぁという感想を持ちました。以上です。

　　委員長：　ありがとうございました。質問に対して、事務局から回答をお願いします。

　　　参事：　水曜日の休みが多かったようです。「平日に１日、土日に１日、休養日を設けるように」となっておりますが、一番多かったのが日曜日で、次に多いのが水曜日でした。

このアンケート９ページの真ん中あたり、「部活動を実施している曜日を教えてください」というところに回答がございます。

　　教育長：　「平日に１日、土日のうちどちらかを休む」というガイドラインに従って、各学校で運用していただいています。なので、「一週間に２日は休みましょう」ということです。

　　委員長：　加えまして、練習時間につきましても「平日は２時間程度まで、土日もどちらか１日休んだうえで３時間程度」となっています。大会等があった場合には、「その分平日にもう１日休みをとる」というガイドラインに基づく運用をしております。

　　委員長：　よろしかったでしょうか。

　　Ｄ委員：　ありがとうございました。

　　委員長：　その他ございますか。

（特になし）

それでは先に進みます。

1. **モデル事業の検討**

**上記項目について，別紙資料に基づき事務局より説明**

委員長：　要するに目指す方向として「日置市としてどんなモデルを作るのか」「どんなモデルがあり得るのか」というご意見をいただきたいと思います。今話題になったことをご意見ください。

Ｅ委員：　アンケート結果を見ると、学校の先生達はやはり外部指導になると「生徒指導上、自分達が動かないことに対してとても不安がある」というのがありました。

私が実際教員をしていた時に、子ども達の日誌はほとんど部活のことでした。「今日はこういう事があって、先生に褒められてとても嬉しかった」とか、だめな時は先生達が励ましてあげて喜びを見出したり、その事が生徒指導に繋がって「じゃあ僕は先生の期待に応えるために学校行事もがんばっていこう」とか、そういう活気のある子ども達が結構いたような気がします。

アンケート結果を見ても、先生達も部活動を外部にすると「生徒指導上、とても不安がある」というのがたくさんありましたし、子ども達の部活動をすることに対する不安は「勉強をする時間があまりない」というのが結構挙がってきています。

それを考えた時に、前は週１回くらいしか部活の休みはありませんでしたが、今は水曜日と土日のどちらかがだいたい休みです。それにもう１日休みを増やして週３日休みにすると、先生達も教材研究をする時間が今よりはあるだろうと思います。

そもそも部活動移行になった１番の理由は「先生達がなかなか子ども達に寄り添って話をする時間がない」「部活動に追われて忙しくて、教材研究をする時間がない」ということだったと思うので、それであれば少しは解決していけるのではないかと、そういう話になっています。以上です。

委員長：　ありがとうございます。学校での部活動を主体として維持しながら、というご意見でした。

他にございますか。どういったご意見でも構いませんので、今話題になったことを紹介していただければと思います。

Ａ校長：　このモデルについて考えてくださいということでしたので、考えました。私が意見を言ったら同意をしていただいたので、この班の意見として答えます。

先程の意見の中にもあったように、平日だけして土日の試合は見られないとなると、それではやる気が出ないんじゃないかと思います。先生方もそこが楽しみというか、成果を見て共有して、そこに喜びを見出していく、ということがあります。そうなってくると、土日だけ渡すというわけにはいかないんじゃないかということでした。

その代替案ですが、私達が例えば５日間するのであれば「平日の２日間は顧問が積極的に付いて部活をする。後の２日間は外部指導者が入る。土日の試合は一緒に行く」というようなやり方でないと、「土日だけ取られるなら別に部活しなくてもいいよ」ということになるんじゃないかと思います。

その中で、私達が学校教育として求める部活動像と子ども達の求める部活動像、保護者も部活を受けてきているのでそういったものがあると思いますが、スライド32に「あなたは部活動を通して、どのようなことを身につけたいと思いますか？」とあって、子ども達は「体力・技術・技能を高めたい」「中学生活を楽しくしたい」「試合で勝つ」「忍耐力や精神力を高めたい」と言うわけですが、先生方の成果は何かというと、スライド15の「社会のルールが身につく」「生徒指導面で良い影響がある」「信頼関係が深まる」です。

結果としてこういう事はありますが、そもそも学校の先生方が部活動を生徒指導のための手段として捉え過ぎているところに、離せない理由があると考えるわけです。だったらこれは教育課程内でやるべきであって、もし部活動を一緒にやるんだったら部活動自体を教育課程の中に入れて、一緒にやればいいというのが僕の考えです。

元に戻りますが、「土日だけ切り離すのは厳しいのではないか」という意見です。ここではそういう話になりました。以上です。

委員長：　はい。ありがとうございました。他にございますか。

Ｅ委員：　そもそも土日は先生と外部指導者が一緒に行くというのが、最初の狙いではありませんでしたか。

教育長：　今、土日と平日のことが話題になっていますが、恐らく土日が先行しているのは「外部指導者の方ができるのがたぶん土日だろう」というところから来ている気がします。

色々な物を読んでみても「土日から」と言っていますが、「平日までできれば全然構わない」ということです。「必ず土日からスタートしなさい」とは言っていません。可能な所があって全部移行できれば、それはそれで可能かと思います。

　　　　　　今Ｅ委員がおっしゃったのは、土日の大会などは今のルール上、顧問が付かなければ試合ができないとか、そういうことがあるので、ということでしょうか。中学校の先生方、どうですか。

委員長：　中体連の大会は顧問が付かないといけないということですね。

Ｆ委員：　アンケートのスライド30に中学生を対象として「土日など休日に、地域指導者等が部活動の指導をすることについて、どう思いますか？」とあり、40.5％の中学生が「専門的な指導であれば地域の指導者でもよい」と、専門的な指導ができれば誰でもよいと、但し「学校の様子が分かっている『学校の先生』がよい」ということは、結局「学校の様子が分かっていて専門的な指導ができる人であれば特に誰でも構いませんよ」と子ども達は答えているわけですね。

そういうことであれば、やはりその学校の部活動の月曜日～金曜日の中の１日でも地域指導者の方が学校の中に入って様子を見ながら、先生方と連携や意思疎通を図りながら部活動に加わっていく形で、それをだんだん延長していく形をとればいいのではないかと思います。ここに子ども達の考え方があるならば、ここに開拓のヒントがあるのではないかと思います。以上です。

委員長：　はい。ありがとうございました。関連して他にございますか。

Ｇ委員：　この３名で話をしましたが、「どんなモデルにするにしても難しい」というのが最初の声でした。

　　　　　　このアンケート結果を見ても、２つが混ざっていて、このスライドでは、部活動の教育的意義や、部活動の思い出作り、人との関わり、人間形成、そういったことを実感して味わってきた人達がほとんどです。ですから、部活動に教育的意義を非常に感じている。人生の生き方であったりですね。

ところが今ご覧いただいた概要もですが、一番上の丸に何が書かれているかというと「少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するための部活動改革が必要」と書かれてあります。つまりここにはその「教育的意義を部活動に求める」ということは書かれていません。

それが混ざっているのもですから、これまで我々が感じてきた部活動の意義を学校から離すことに対する不安が非常に強い。だから「土日だけ」「平日は」ということになって、その難しさが出てきている気がします。

今色々な話がありましたが、部活動を経験してきた者にとっては、土日だけ外部指導者にお願いするとなると、顧問が一生懸命やっていたからこそ調整が難しくなってきたり、色々な問題が起こった時にどうしようか、ということが出てきたりしがちです。

ですから最終的に「日置市として子ども達にスポーツの機会を与えるためにどうしたらいいのか」をゴールとして、そこまでの流れとして土日を委託するのか、最終的なゴールの「機会を確保するため」にするのか、「部活動としての教育的意義を維持するもの」を作るのか、そこをはっきりしないとこの移行の問題は難しい気がします。

　　　　　　少し調べてみたんですが、部活動学会の副会長をされている方が「そういうものを町ぐるみで作るのに10年くらいかかる」と言われています。「その為の２、３年間を地域の中に行くまでの移行期間を作っていくべきだ」と、つまり「部活動も町づくりだ」とおっしゃっている先生がいらっしゃいます。

そういうことも含めて考えていかなければならないと思っています。混ざっているところがなかなか難しいところかと思います。以上です。

　　委員長：　はい。ありがとうございました。非常にスケールが大きくて、先が見えないからこういう声が出たりもするんですけれども、日置市としてどういうスタイルがいいか。

現状を維持しながらですし、外部指導者がそれだけ人材がいるかというとそれも無いわけですし、地域にそれだけの地域スポーツクラブ的な全ての競技をカバーできるだけの団体があるかというとそれも無いわけですし、でも現状では子ども達はスポーツを続けていかなければいけないし、となった時に、今のスタイルと教員の負担軽減を考えながら、どうしていくのがいいのか。

当然練習会場の移動があったりして、返って地域移行にすることによって、スポーツ離れをする子ども達も出てくるだろうと思います。「だったら面倒くさいから入らない」とか「わざわざ平日も遠くまで行かないといけないし」とか。

部活動の良さは、放課後になったらその場で着替えてすぐグラウンドに行って、すぐ校庭を走って体力をつけて、という良さがあると思うと、なかなか遠い所はという中で、どう着地していくのか、どういうスタイルに持っていくのかだと思います。

そういった意味で知恵をお借りしたいというのが、この場だと思います。今日結論は出ませんが、そういった意味で、それぞれのお考えで結構ですので、もう少しご意見をいただければと思います。

Ｈ委員：　「モデル事業をどうするか」という観点で話をさせていただいたところです。

　　　　　　スライド49に「モデル事業の検討」ということで、端的にいくつか例が挙げられています。私はバレーの関係で外部指導をしておりますので、そこしか分かりませんが、バレーは地区で集まって練習会などをする機会もあります。少年団とか、どこでもあると思いますが、少年団の頃からずっとそういうのがあります。

フラーゴラッドさんが今日はいらっしゃいませんが、せっかく入ってらっしゃるので、週末に合同練習会みたいな形で１回そこを見てもらって、今のバレー部の顧問の先生方は熱い先生方が多くて、地区での合同練習会の時にもそれを見る先生方がいたり、それくらい決めてされるので、全く切り離すのではなく、そこで関わりを持ちながら、バレーができればいいのではないかと話題に挙げさせていただきました。

　　　　　　その意見を挙げさせていただいた時に、スライド43で、中学校の加入率の問題とかありますが、３つの比較的規模の大きい学校と下の方の規模の小さい学校とした時に、「なかなか練習がチームとしてできない」という課題や「部活がない」ということもあり、そういった意味でも集まって練習をする機会は、子ども達にとっては１つの楽しみになるのかなと思います。

それを基にモデル事業として、フラーゴラッドさんもいらっしゃるので、模索していければいいのではないかというところでした。

委員長：　はい。ありがとうございました。週末の合同練習会によって、技術の向上や、お互いの気持ちの高揚などを維持できるのではないかということでした。

　　　　　　他にございますか。

Ｄ委員：　ジュニアオーケストラの例が出ておりますので、考えてみましたが、毎週土曜日の夜に練習をしております。指導者はそれぞれ楽器の専門のメンバーが集まって指導しております。

これと各学校の部活動との関連を考えた時に、このジュニアオーケストラの練習に参加することは可能だろうと思います。ただ、学校には学校の部活の目的があります。例えばコンクールに出るとか。そうした時に、コンクールに向けた練習というのはできません。ですから平日どのようにするかが１つの課題になります。

土曜日だけではなかなか吹奏楽も難しいでしょう。平日に練習するとなると、先生方が関わらなければ、誰かを派遣することになりますが、皆仕事を持っております。ですから学校に行くのは限られた人、例えば仕事に就いていない人、あるいはフリーで指導をしている人ということになります。学校のそうした要望に応えられるかは難しいところかと思います。

そうなると学校の音楽の先生が１番頼りではあるわけです。先生方の負担を考えた時に、例えば平日は学校で学校の目的に沿った活動をしてもらって、土曜日は基本的な自分の力を練る機会として参加する。その場合は、もちろん一人一人の力を高めるための指導はしますが、具体的にはオーケストラの持っている目的に沿って曲の練習をいたします。ですから学校の曲目とは異なってまいります。そうした課題があります。

このモデルでいくと、拠点校型(Ⅰ)ではどこも先生方が関わっているようですが、ＮＰＯとか実業団とか、それが実態としてどれだけ対応が可能なのか、その辺りを探る必要があろうかと思うところです。

できるだけアンケートにある子ども達の要望や、保護者もすごい意向を示しておられますので、それにどう応えるかというのは、具体的にそういう見通しが立たないと取り掛かれないのではないかという気がいたします。以上です。

 委員長：　はい。ありがとうございました。

　　Ｅ委員：　私達の総合型の現状を見ますと、私は陸上なんですが、水木土やっています。伊集院中学校、伊集院北中学校、東市来中学校の中学生が30人弱来ています。全員で中学生が30人弱なんですが、鹿児島市内の子達も来ます。

学校の部活動に入っている子もいれば、入っていない子もいます。今年から入らずに来ている子もいます。なぜかと言うと、今年から陸上は中体連、全国に繋がる大会は、クラブからも参加できるようになったからです。

但し、リレーが学校単位でなければ出られないんです。それがすごくネックで、陸上のクラブに入っている子はある程度走りの速い子で、「リレーにも出たい」という子達がいます。そうするとやはり学校にも籍を置いておかないと、というところがあります。

でも今年からの違いは、「リレーはしません。中体連にクラブから出られるならクラブ一本でいきます」という子もでています。以上です。

委員長：　はい。ありがとうございました。

我々も考えてみたんですが、現状とこれから先のことを考えた時に、１枚紙のロードマップがあったと思いますが、これを見ていただくと、野球の例で言いますと、真ん中程の市町村の黒矢印の所に「拠点校方式による合同部活動の推進」とあります。我々の考えですが、これも１つの方法としてあるのかなと思っています。

例えば野球も今人数が少なくなってきて、単独チームで出られる所が少なくなっています。伊集院中学校も新チームになれば単独が作れないのが現状です。

今で言うと、吹上中と日吉学園と東市来中が３校合同を組んでいます。例えば、平日はそれぞれの学校で、決められたメニューをこなして練習してもらって、土日は大会や練習を含めて集まって練習をします。その時の指導者については、その３校の指導者で話してもらって、「僕がメインでやるよ」と言ってくれる方がいればその方が土日の面倒を見る。当然それに対しては謝金という形で何かあげてもいいですし、交代でしようということになれば、負担も軽減されるかと思います。

専門外であっても基本的には専門の先生が作った練習メニューを子ども達は平日にこなしてもらって、それを専門の先生、特に部活動をしたい先生に見てもらうというようなスタイルになっていくのかなと。そういったスタイルが、この中では１番現状に合っているのかな、そういう方向もあるのかなと考えていたところです。

先程のバレー部の話でも、「そこで合同練習会をやるよ」となれば土日の負担もだいぶ減ってくるかと思います。そうすれば人数が少ない所でもやりたいスポーツを継続してやれますし、廃部になる必要はないのかなと。それが地域全体で部活動を推進していく１つの方法なのかなと、こちらでは話したところでした。

　　　　　　時間になりましたので、ここで結論を出すことではありませんし、色々なご意見を伺えましたので、これを基にもうしばらくそれぞれいろいろな情報を集めていただきながら、次回に繋げられればと思います。

1. **今後のスケジュール**

**上記項目について，別紙資料に基づき事務局より説明**

1. **その他**

委員長：　何かございますか。

　　　　　（特になし）

　　　　　よろしかったでしょうか。

　　　　　　それでは議事はこれで終了となります。ご協力ありがとうございました。

４　その他

**５　閉会**

参事：　それでは本日、議長・副議長を務めていただきました田中委員、元山委員に、感謝の気持ちを込めまして拍手をお願いします。

　　　　　（拍手）

　　　　　　議題以外で確認したいことなどありますでしょうか。

　　　　　（特になし）

　　　　　よろしいでしょうか。

文書の方はまた８月頃お送りさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

　　　　　　本日も長時間にわたり活発なご意見等を頂きまして、ありがとうございました。それでは姿勢を正してください。

　　　　　　以上で第３回日置市部活動在り方検討委員会を終わりたいと思います。ありがとうございました。